

## 広島県立大崎海星高等学校校舎（1号棟）改築その他工事に伴う 実施設計業務の設計者選定結果について

### 1 選定結果

広島県立大崎海星高等学校校舎（1号棟）改築その他工事に伴う実施設計業務の設計者選定について、公募型プロポーザルを実施した結果、次のとおり候補者と次点を特定しました。

- 候補者 仲子盛進総合環境デザイン・ナフ・アーキテクトアンドデザイン設計共同体
- 次点 大旗・アトリエドリーム設計共同体

### 2 報告

大崎海星高等学校校舎（1号棟）改築その他工事に伴う実施設計業務は、自然の恵みを生かす木造校舎の整備や、まちなみ景観デザイン等に配慮した魅力ある公共建築とするために、設計者の発想力を今まで以上に活かすことを目的として、公募型プロポーザルによる設計者の選定を行いました。

#### (1) 設計者選定審査委員会

専門知識を有する学識経験者、実務経験者、施設管理者及び行政職員等で構成する「広島県立大崎海星高等学校校舎（1号棟）改築その他工事に伴う設計者選定審査委員会」（以下、「設計者選定委員会」という）を設置し、審議しました。

#### ●設計者選定審査委員会委員（順不同・敬称略）

委員区分	氏名	役職等	審査の視点
委員長	平野吉信	広島大学 大学院工学研究院 教授	建築計画
委員	今井信博	株式会社現代計画研究所 代表取締役社長	木造建築
委員	杉田輝征	社団法人広島県建築士会 常務理事 社団法人日本建築家協会 会員	建築設計
委員	島村隆義	国土交通省中国地方整備局営繕部整備課長	営繕行政
委員	石田修次	大崎上島町企画振興課 企画情報係長	まちづくり
委員	河原直己	広島県土木局 建築技術部長	建築行政
委員	岡本泰宏	広島県教育委員会事務局管理部 施設課長	主管課

#### (2) 公募型プロポーザル関連のスケジュール

- 平成25年 2月 8日 ○第1回設計者選定委員会  
・審査基準等の策定
- 平成25年 2月12日 ○公募型プロポーザルの公告
- 平成25年 2月21日 ○参加表明書の提出締切  
・参加者8者（内、設計共同体2者）
- 平成25年 2月25日 ○第2回設計者選定委員会  
・技術提案書の提出要請者の選定
- 平成25年 2月26日 ○技術提案書の提出要請  
・要請者5者（内、設計共同体2者）
- 平成25年 3月 7日 ○技術提案書の提出締切
- 平成25年 3月14日 ○第3回設計者選定委員会  
・ヒアリング・技術提案書の評価  
・技術提案書の特定  
・県への報告
- 平成25年 3月29日 ○設計業務委託契約締結

### (3) 審査概要

#### ① 技術提案書の提出者（一次審査）

参加表明のあった8者からの参加表明書を審査し、得点の高い者から5者を選定しました。

#### ② 技術提案書の特定（二次審査）

一次審査の結果、技術提案書を求めた5者から提出された、技術提案書の評価及び提出者からのヒアリングにより、技術提案書の特定を行いました。

### (4) 技術提案書の講評

#### ① 総評

今回のプロポーザルは木造の県立高等学校管理棟の設計を対象としており、木造校舎の構造設計・継ぎ手や仕口など木構造の品質確保についての知識や取組み体制などが評価の対象となりました。

また、敷地内の既存校舎との調和や周辺の小中学校、文化ホールと一体となった街並みの形成への配慮、環境負荷の低減や自然との共生を考慮した木造校舎の計画について実現性の高い提案を行っているかなどの視点から技術提案書の審査やヒアリングを行い、提案者の意欲や技術提案の内容に対する議論を重ねたうえで選定を行いました。

なお、木造架構については、在来軸組工法や大断面認定工法など様々な提案がなされましたが、施工性を含めた詳細な検討が必要であるといった指摘がありました。

また、実施設計にあたっては学校開放のあり方や既設校舎との連絡などについて学校管理者の意見を取り入れて設計案を練り上げる必要があるとの意見が付けられました。

#### ② 特定者

Y型に室を配置し、既存校舎間の移動を渡り廊下ではなく、木を感じる中廊下を通行することを意図した平面計画となっています。校舎から体育館への経路のデザインなど、空間づくりの可能性が大きいと評価されました。

木造架構の提案については、新しい架構の採用など個性的な技術提案がみられました。

合成梁の採用による大スパンへの対応、規格流通材、同一部材の利用によるスケールメリットを生む構造計画など、今後の木造架構のモデル化が期待できる案となっています。

これらは、プロポーザル方式ならではの提案であり、提案者への期待感も含めて高く評価されました。

ただし、木材の強度や構造特性などについては十分な詳細検討が必要であること、室の配置や駐車場の利用について学校管理者の意見を取り入れるなど、発注者との協議が必要である、などの意見が出されました。

### ③ 次点者

南北軸に校舎を配置し中庭を設け、コの字型に平面計画を行った案です。

既存の樹木を取り入れた屋内と屋外を一体化した平面計画であり、語らいの広場と資料室を一体として地域に開放するなど、総合的にバランスの取れた点が高く評価されました。

生徒の移動経路などメリハリのついた計画がされており、街並み形成についてもよく検討した結果が提案されています。

しかし、一般流通材による木造軸組工法を採用するとの記述はありますが、具体的な内容を読み取ることができず、木造の架構についての提案が弱いことが残念でした。